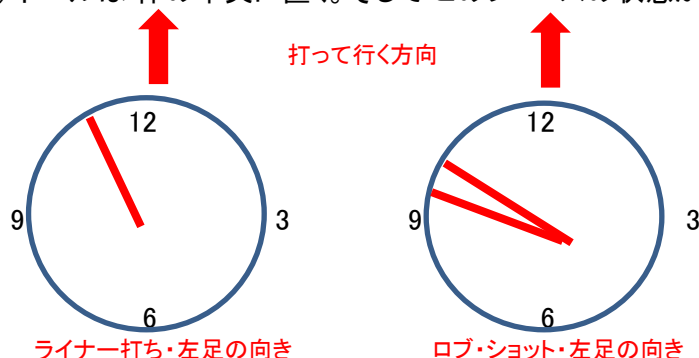


# 第66巻 ロブショットの打ち方

ゴルフでは、バンカー越えのアプローチなど 短い距離のショットで ボールを高く、ふわっと上げて打ちたい時がある。そんな時に必要になるのが ロブ・ショット（フロップ・ショットとも言う）である。パークゴルフの場合は、上記の状況のほかに、ティショットにおいても、コース状況によりロブで打っていく場合があるが、基本的には高さはあまり必要ないのでティショットでの多用はいかがなものか？上手いかなかったときは、1打以上損をする場合があるので、状況を判断してこの打ち方をするかしないか、判断すべきであるが、上手く打てるようになれば大きな武器となるので是非マスターしてほしい。

## 1、ロブ・ショットの打ち方

スタンスは 広くオープンに取って（ライナー打ちの場合、左足の位置が11時くらいだとすると、9:30～10時くらいの位置）ボールは 体の中央に置く。そしてこのフェースの状態が



スイングの間を通じて 保てるようにスイングするのがコツである。グリップはウィーク・グリップで軽く握り、主に上半身を使ってVの字のスイングで 少しカット・ショット気味に打てば良いだろう。フォロースルーは腰の高さで止めるような感覚で フェースが 空を指すように フィニッシュまで 手首を返さない（アンコックしない）のがコツだ。右手主導のスイングにするとこの動作がやり易くなるだろう。アプローチの場合、距離の短いショットだから、どうしても バック・スイングが 小さくなり 腕に力が入りがちだが、バック・スイングは 大きめにし（ほぼ 9時まで）腕の力を抜いて ゆっくりと振るようにしよう。

虎の巻第9巻にロブショットの動画と、クラブの握り方、構え方を紹介しているが、基本的には同じ考え方と思って良いがグリップ・、体の向き方が難しいという方もいるので別な方法を紹介している。第9巻のロブのバックスイングは、グリップをずらして構えているので、ストレートにバックスイングをするよう紹介しているが、この巻の握り方はそこまで極端ではないので、バックスイングは若干アウトサイドに上げてボールを打って行くことになる。

### ※ ウィークグリップとは

ボールを前にして構えた際に、左手を見ても、こぶしの山が2個あるいはそれ以下だった場合、ウィークグリップといいフェースが開きやすくスライスが出やすいグリップである。



ボール位置は、体の中央。フェースはやや右方向を向く。手首を返さないで右手主導で！

芝の状態により、芝が短い場合は、若干ボールを前方に置く等、考慮する必要があるだろう。当然、ラフで浮いている状態の時には、だるま落としにならないようレベルでスイングするように少し打ち方を変える必要がある。いずれも手首を返さないということが最大のポイントである。

## 2、ロブ・ショットの使い方

前述したように、ロブ・ショットは大きなメリットもあれば、大きなデメリットもあるショットである。一番は、こういうショットをしなくて良いマネジメントをするべきであるが、リスクとリターンを考慮し必要であれば保険を掛けるようなショットの打ち方も考えて、上手に使える大きな武器になることは間違いない。

リスクとリターンを考えるとということだが、

(1) ロブ・ショットを上手く打つことの出来る可能性

(2) 失敗した時のダメージ

の2点を、常に考えるべきである。

成功の確率が8～9割くらいなら、自信を持って打つべきであろうが、2～3割くらいの確率ならば、別な方法を取るべきであろう。一概にはいえないが、4～5割の成功率を目安に失敗してもダメージがそれほど大きくない場合はロブ・ショットを使うという判断にしたらどうだろう。当然、4～5割の成功率でもミスした時のダメージが大きい場合は即やめるべきである。

いずれにしても、ロブ・ショットは 失敗することを意識することが失敗の原因になるという側面もあるから、その点についても 注意が必要である。

